城陽市の まちづくりを考える ワークショップ 開催概要

開催日
2024年11月30日（土）
13:30～16:30

目的

城陽市では現在、少子高齢化などの社会構造の変化等を踏まえ、市民の皆様が安心して暮らすことができる、持続可能なまちづくりの実現に向け、市内全域の土地利用方針等を示す都市計画マスタープランの改定と、居住機能や生活サービス機能等の集約・誘導や公共交通との連携施策による「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを進めるための立地適正化計画の策定に取り組んでいます。
これらの計画の改定・策定にあたり、皆さま方のご意向等を最大限反映し、納得いただける計画とするため、まちづくりを考えるワークショップを開催しました。

開催場所

城陽市立福祉センター 1階ホール

参加者数

15名

（城陽市にお住まいの方、または城陽市に通勤・通学されている方、
城陽市のまちづくりに関心をお持ちの方）

内容

当日のスケジュール

13:30～13:35　あいさつ
13:35～14:00　市の現状等説明
14:00～16:00　ディスカッション
16:00～16:20　各グループ発表
16:20～16:30　講評・まとめ

ディスカッションテーマ

各地域の現状・課題
- 各地域の魅力
- 不足している施設　など

地域に必要なまちの機能
- どんな施設等があれば住みやすいか
- にぎわいづくりのため、市がやるべきこと　など

当日の様子

市の現状等説明の様子

- ディスカッションを開始する前に、オリエンテーションとして、城陽市の現状・課題、市内で実施している主要な事業について、城陽市から説明を行いました。

ディスカッションの様子

- 4つのグループに分かれて、テーマに沿って意見を書き出し、ディスカッションを行いました。
- それぞれのテーマに対して、積極的に意見を交わしあう様子が伺えました。

各グループ発表の様子

- ディスカッションの内容などをグループごとに発表し、城陽市のまちづくりの課題や必要な取組等について、出席者全体で共有を図りました。

ディスカッションの内容　グループA

※意見内容を一部抜粋

観光と賑わいの向上

- 城陽市には多くの魅力的な観光地があるものの、賑わいが少ない。
- 寺田地区が市の中心になると思うが、飲食やアクティビティが少ない。
- まずは駅に降りてもらい、知ってもらうことが重要。
- 企業とのコラボレーションを通じて、鉄道の途中下車地として来訪のきっかけを作ることが重要。

子育て支援

- 子育てに関して不満はないものの、大きな魅力を感じられておらず、子連れで行けるカフェや山沿いにある育児施設の整備が求められる。
- 就職支援など、子育て世代をバックアップする施策があれば良い。

駅前の活性化

- 駅前の賑わいが欠けており、駅前に商業施設を集約することが重要。
- 駅前にレンタサイクルを設置するなど、来訪者が使いやすい公共交通網の整備が必要。

ディスカッションの内容　グループB

※意見内容を一部抜粋

公共交通の不足

- JRと近鉄の2線があるが、東部丘陵地域への公共交通がないため、アウトレットが開業しても、若者が寄りにくい印象。

住みやすさ

- 日常生活を送る上での都市機能については不便はなく、移住してきた人も住みやすい。
- 城陽市は自然災害が少なく、気候的にも住みやすいまちであり、市内外へのアピールを行うことによって、移住者が増える可能性がある。

大学との連携の欠如

- 他自治体では大学と地域の連携があるが、城陽市には大学がないため、地域との連携が難しい。

ディスカッションの内容　グループC

※意見内容を一部抜粋

観光とイベント

- 木津川運動公園やLOGOSLAND等でのイベント時には渋滞が発生しており、駐車場やバス路線の整備が必要。

外食と商業施設

- 外食できるお店はあるが、駅前にコンビニやカフェが少ない。
- アウトレットモールの立地により娯楽施設は充足されるかもしれないが、地元スーパー等の商業施設が衰退する恐れがある。

交通の課題

- JRの本数が少なく、タクシー待機の台数も少ない。駅前にカーシェアやレンタサイクルがあれば移動の課題が解消されるかもしれない。

情報発信

- SNSによる情報発信が重要。
- 地域の祭りや城陽市の魅力をデジタル媒体で発信することが求められている。

ディスカッションの内容　グループD

※意見内容を一部抜粋

住みやすさと人口減少

- 都市機能は充実していて住みやすいまちである。
- 人口減少への対策として、住みやすさをアピールして、城陽市の認知度を高めることが必要。

食生活の豊かさ

- 小中学校の給食がおいしい。
- 地元の農家さんが多いため、食生活が豊かである。

環境整備とDX

- 家を建てやすい環境整備や、DXのまちづくり（日本初の事例づくり）が重要。
- 移住対象は日本人だけでなく、グローバルに展開できれば良い。

ワークショップの意見とりまとめ

※各グループからの意見を地区ごとに要約

	現状・課題	必要な機能・取組
久津川地区	● 歴史的な古墳が多くある ● サンフォルテ城陽へは市外から通勤している ● 東西を通じる道が少ない ● 道が狭い	● 交通機能の確保
城陽寺田地区	● スーパーや飲食店は多い ● 観光地はあるが、賑わいに欠けている ● 若者が立ち寄りたくなる施設（カフェ、アクティビティ等）が少ない ● イベント時には渋滞が発生することがある ● 子ども連れで行ける（遊べる）場所が少ない ● 公共交通機関の利用に不便を感じる地域がある	● 駅前に商業施設を集約していってはどうか ● 来訪者が移動しやすいようにレンタサイクルを設置するなど公共交通網の整備 ● 企業とのコラボレーション等を行い、鉄道の途中下車地にすることによる来訪のきっかけづくりになれば ● 駐車場整備やバス路線の整備
長池富野地区	● 地域コミュニティが強い ● アウトレットへの期待感はあるが、場所がわからない ● 災害時の避難場所がわからない ● 場所によっては産科・耳鼻科・眼科などが近くにない	● アウトレットへの期待もあるが、交通渋滞への対策や開発現場の情報等に関するＰＲが必要 ● ハザードマップの周知
山城青谷地区	● 景色・水・空気がよい ● 鉄道がＪＲしかない ● バス路線が市内側に行かない	● 豊かな自然環境を活かしていくべき ● 新名神高速道路により東京とつながれば宣伝効果があるのではないか
共通（全域）	● 都市機能は充実しており住みやすいと感じるが、市の認知度は低い ● 小学校給食がおいしい ● 4つの地区のつながりがあっても良い ● 城陽市には大学がなく、学生や若者にとっての魅力が乏しい ● 子育て環境として不満があるわけではないが、大きな魅力は感じられない ● JRの本数が少なく、またタクシーも少ない ● アウトレットモールには期待しているが、地元のスーパー等の商業施設が衰退していく恐れがある ● 名産のイチジクは地域の無人販売所で売っているが、市民でもすぐには買えない	● 住みやすさをアピールして、市の認知度を高める ● 日本初の事例づくりが必要（DXまちづくり等） ● 子連れで行けるカフェなど、子育て世帯の交流スペースなどがあれば ● 若者へは、アクセスのしやすさと施設の充実が必要 ● 駅前にカーシェア、レンタサイクルがあれば、移動の課題は解消されるかもしれない ● 娯楽施設はアウトレットモールの立地により改善されるかもしれない ● SNSでの情報発信などをより強化していく（地域の祭りや城陽市の魅力）